

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1290900016		
法人名	株式会社東京酸器		
事業所名	ディアフレンドならしの		
所在地	〒274-0034 千葉県船橋市習志野1丁目13-17 (電話) 047(464)6511		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	〒273-0048 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成19年4月11日	評価確定日	平成19年4月23日

【情報提供票より】(平成19年4月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 16 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> (288,000円) <input type="radio"/> 無し	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / <input type="radio"/> 無し	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,700 円			

(4) 利用者の概要(4月9日現在)

利用者人数	14 名	男性	4 名	女性	10 名
要介護1	5	要介護2	6		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2			
年齢	平均 85.4 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共立習志野台病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かで緑の多い広い空間のある環境に立地している。建物は光が良く取り入れられ、中庭があり、明るい居室となっている。またさまざまな目的室が設置され、ゆったりと過ごせる環境である。運営はパーソンセンタードケア(その人らしさを尊重)の実践に努め、本人や家族の「話をよく聞く」ことにより、利用者は調理や掃除の役割を担ったり、趣味を生かしたり、公園散歩、買い物、毎日好きな時間に入浴など自由に過ごしている。また職員が「生き生き」しており表情が明るく、元気な挨拶が印象的である。管理者は職員が困難な問題を抱えたとき、「話をよく聞く」ことにより、解決する努力をしているようである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	平成18年5月の開設であり、今回が初めての外部評価である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に当たって、管理者は現場スタッフと話し合い、改善すべき課題を16項目抽出し、評価者の指摘を含めて、今年度2回自己評価を実施し、サービスの質向上に努めたいと意欲的である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	最近の運営推進会議には、利用者、利用者家族、地域住民代表として町会会長、副会長、民生委員、市側として船橋市東部地域包括支援センター長が参加し、事業所の活動状況報告と参加者からの評価、要望、助言を聴取する内容で実施された。地域交流について、事業所会議室の地域活用、地域交流行事計画、地域包括支援センター連携による介護教室企画など話合われた。利用者からはケアに関する感謝の声も聞かれた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	制度的には、苦情相談窓口を設置し、随時対応している。中心は、家族の面会訪問時、職員との対話により意見・要望が収集され、ユニット毎話し合わせ、日常的に対応されていることが多い。家族会などによる意見収集はまだ実施していない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会との連携により、地域の行事、夏祭り、餅つき会、忘年会、新年会などに利用者が参加したり、事業所の敬老会、消防訓練に町内会の方が参加されたりしている。また事業所の会議室を地域の方に活用していただき、交流の機会を設けている。小中学校との交流や介護教室開催などは今後の課題としている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年5月の開設に当たり、基本理念、運営方針を決め、重要事項説明書にも明記している。考え方は介護保険・関係法令とパーソンセンタードケア（その人らしさを尊重）の実践を基本として、「住み慣れた地域でその人らしい生活・自由で喜びのある生活」を親身にサポートすると謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と実践は、月2回のケアカンファレンス（計画）、ケア会議、ショートカンファレンス、朝礼などのミーティング時に、実践的に具体的な事柄で話合われている。	○	理念に基づきパーソンセンタードケア（その人らしさを尊重）の実践のため、日常の具体的な取り組みは優れているが、時には目的や方針といった「何の為に頑張っているのか」という基本理念についても話し合ってもらいたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、忘年会、新年会、餅つき会などに利用者が参加したり、事業所の敬老会、消防訓練などに、地域の方が参加したり、事業所内地域交流スペースを活用していただくなど地域との交流に努めている。	○	地域町会との行事参加を活性化すると共に、保育園、幼稚園、小中学校との交流や地域包括支援センターと連携して、介護教室の開催など、地域交流の幅を広げて欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価に積極的に取り組み、自己評価に当たっては、現場スタッフと話し合い、改善課題を抽出している。今後は年2回の自己評価を実施し、ケアの向上に努めたいとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月20日の運営推進会議には、利用者、利用者家族、地域住民代表として町内会長、副会長、民生委員、市側として船橋市東部地域包括支援センター所長が参加し、事業所の活動状況報告と参加者からの評価、要望、助言を聴取する内容で実施された。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外としては、包括支援センターとの日常的な情報交換や成年後見制度活用に関する情報交換などが中心である。	○	市の担当者にもっと積極的に事業所情報を提供し、市との連携を深め、サービスの質向上に努めて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月デイアフレンドならしの通信を発行し、利用者の暮らしぶりや表情など報告している。また家族が面会に来られた時に、職員より、その都度日常の様子が報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を反映する仕組みは、制度的には苦情相談窓口を設置し、随時対応している。しかし中心は家族の方が面談に来られた時、職員との対話により意見・要望が収集され、日常的に即対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	まず職員の定着率が高くなるように、職員が困難な状況にあるとき、話を聞いてあげたり、助言をするように努めている。異動などの場合は、引継ぎを弾力的に時間をかけて実施し、利用者には不安を与えない配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアカンファレンスやケア会議で事例を基に討議し、また現場で実践しながら教育している。またリーダーが外部研修を受講した後は全職員に伝達するようにしている。更には資格取得を促す情報の提供をしている。計画的な内部研修は今後の課題である。	○	現状では、○J Tの現場トレーニングが中心である。今後は職員の意向を踏まえた上で計画的な内部研修体制を整備されることを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「船橋市グループホーム連絡協議会」へ参加し、平成19年からは実務者レベルでの交流も始まる。	○	設立間もない当施設職員にとっては他の同業者のノウハウを吸収することは極めて大事なことで、今後は地域の同業者との連携をはかりノウハウ情報交流の場拡大に向けた取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに馴染み、納得して入居していただく為に、体験入居を必ず採り入れて本人・家族の納得を前提にした「申し込みから入居までの段階的な支援システム」が確立、機能している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の残存能力を活かしながら例えば調理、片付け、洗濯物整理、掃除など役割を持たせ落ち着いて本人なりの行動ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションから個々の希望、意向を把握しケース記録に記したものをカンファレンスでの様々な角度から検討する際の材料として活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャー、ワーカー、看護師など各職種からなるカンファレンスを実施して様々な目線での意見を基に介護計画を作成している。家族との話し合いが必ずしも十分ではない点が見られる。	○	言うまでもなく介護計画は利用者本位でなければならないが、認知症対象の当施設の場合本人をよく知る家族の気付きや意向が一層重要になってくる。したがって今後介護計画づくりへの全家族の参画を促すよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一度のカンファレンスにおいて必要に応じて家族や関係者から情報を得て現状に合わせた介護計画を作成するよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用スペースや行事などを活用して利用者や家族、地域の方との交流や生活の幅を広げるよう支援している。また、随時階下にある小規模多機能型居宅介護と一緒に行事やレクレーションを実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望、施設の協力により定期受診、協力医療機関による訪問診療を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設間もない事業所でもあり重度化や終末期については対象にせず対応方針も明確化されていない。	○	いずれ直面する大きな課題であるので特に終末期のあり方、対応について関係者全体で話し合い方針の統一化、共有化を図っていかれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理に関しては個別ケースやファイルを所定の保管場所に置き外部へは必要時以外持ち出さないようにしている。また一人ひとりの誇りを傷つけないために言葉遣いや介護場面での配慮についてそのつど指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴、消灯時間など個々人のペースを大事にして、弾力的に運用することにより、ゆとりのある時間を過ごしてもらうよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理したり盛り付けをして家庭的な雰囲気ですべてを楽しんでもらっている。また食器類は陶磁器を使用しており自宅から馴染んだ食器の持ち込みも可となりお盆も滑り止めのついた漆器風の見映えの良いものを使っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日好きな時間（正午～19時）に入浴できるようにしている。また、階下の大浴場「ラムネの湯」にも入れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技（庭の手入れ、書道など）を活かしながら本人のリズムに合わせて日々充実した生活を送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて散歩や庭いじり、買い物など可能なかぎり支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでおり、玄関や居室は自由に出入りが可能な状態にしてある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間一回以上の災害訓練を消防署・地域の方（町会）をまじえて実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは委託先の管理栄養士が栄養バランスを十分考慮したもので、水分確保についても一人ひとりの状態に合わせて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂を分けそれぞれの時間を好きな方と過ごしていただけるよう配慮され季節にふさわしい利用者の作品を掲示したり落ち着いた雰囲気醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具・持ち物は自由に持ち込み可とし住み慣れた居住環境をつくり出している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。